

決定版 福島放射線衛生調査

低線量率だった福島の真実と 20km 圏内の復興

< 目 次 >

はじめに・3

第 1 章 福島緊急時の個人線量 13

- ・ 緊急時の個人線量値・13
- ・ 線量と障害の発生・22
- ・ 胎児に影響がある場合は 0.1Sv 以上・26
- ・ 生殖腺に影響がある場合・27
- ・ 線量 6 段階区分とリスク判断・28
- ・ 放射線障害防止法・31
- ・ 核緊急時の防護基準・32

第 2 章 3.11 あの日から 35

- ・ 全原子炉の核分裂連鎖反応が自動停止・35
- ・ 思い出す 1995 年・38
- ・ 人道と科学・39
- ・ 安全を保った女川原子力発電所・41
- ・ 周辺住民が女川原発へ避難・43
- ・ 福島第一原発の緊急事態と初動に遅れた政府・44
- ・ 3月12日 水素爆発・46
- ・ 自衛隊の活躍・48
- ・ 成功した自衛隊員の放射線防護・50
- ・ シルクロード今昔展——大谷探検隊との接点・52
- ・ 放射線防護情報を発信・55
- ・ ウランバトルで科学会議・57
- ・ 中央アジアで未曾有の核爆発災害・58
- ・ 大相撲だけでないモンゴルの親日・59

第3章 4月 東日本緊急放射線衛生調査 …………… 63

- ・ 混乱する現地川俣町との交渉は決裂・ 65
- ・ ポータブルラボ・ 67
- ・ 福島県を目指して出発・ 69
- ・ 4月6日・ 69
- ・ 青森市・ 70
- ・ 4月7日・ 71
- ・ 仙台市・ 71
- ・ 4月8日・ 73
- ・ 二本松市・ 73
- ・ 4月9日・ 76
- ・ 浪江町・ 77
- ・ 福島第一原発周辺・ 79
- ・ 4月10日・ 81
- ・ 飯舘村・ 81
- ・ 福島第一原発から東京へ・ 83
- ・ 東日本放射線衛生調査の緊急報告会・ 85
- ・ 福島県民甲状腺線量測定の方法と結果・ 88
- ・ 緊急避難した周辺住民の外部被曝線量の推定・ 89

第4章 県民国民の心配に応える震災元年の取り組み …………… 91

- ・ 南相馬市内の大病院・ 91
- ・ 放射線による健康リスクに関する講演会のお知らせ・ 94
- ・ 南相馬市・ 100

講演

- ・核科学の歴史・102
- ・世界の核災害調査・104
- ・放射線と核災害・105
- ・チェルノブイリ黒鉛炉暴走事故と甲状腺がん・109
- ・地震のエネルギーと核爆発エネルギーを比べる・112
- ・福島県民の外部被曝と内部被曝はレベル D 以下・113
- ・南相馬市はレベル D 以下・115

- ・同行した白石氏の感想・117
- ・7月から12月までの積算線量は0.59mSv以下・118
- ・福島県郡山市から北海道へ避難した母子・121
- ・朝まで生テレビ 国は個人線量を測りなさい・122
- ・8月 仙台～甲子～会津～福島～石巻～女川 放射線衛生調査
2年目の年間外部被曝は0.56mSv以下・125
- ・9月 いわき市の検査と講演に1300人が集まった・131

第5章 復活の牧場 2年目以後の福島20km圏内 …………… 133

- ・二本松市の仮設住宅で説明会・134
- ・初めての牛の体内セシウム測定・136
- ・浪江町警戒区域に2泊3日・141
- ・帰還可能 17mSv・142
- ・震災2年目以後の牛体内のセシウムの大幅な減衰・143
- ・実線量調査では、浪江町末の森さえ帰還できる・145

第6章 福島と世界の比較 線量・線量率と災害規模 …………… 151

- ・ 福島緊急時の線量値と世界の核放射線災害・151
- ・ 歴史的な大規模核災害時の1日線量率と寿命影響・154
- ・ 線量レベルB線量でさえ、顕著な寿命短縮はない・160
- ・ 福島県民の甲状腺検査は他県と有意差なし・163

第7章 安全技術が進化する原発と福島20km圏内の復興策 …… 165

- ・ 福島第一原発の敷地境界の放射線の減衰・165
- ・ 最強のハイテク施設・168
- ・ 絶対に核爆発しない軽水炉・171
- ・ 世界一の地震津波対策技術に挑戦する浜岡原子力発電所・173
- ・ 海拔29メートルの防潮堤を建設する女川原子力発電所・175
- ・ 伊方原子力発電所の対策強化・176
- ・ 高速増殖炉もんじゅの安全性に関する公開技術討論・177
- ・ もんじゅの耐震性と耐津波性・180
- ・ 政策の基礎に科学を 20km圏の復興策の提言・181
- ・ 科学者からの提言 SAMRAI2014・186

まとめ・189

本書で使用する用語・195

参考文献・201

コラム目次

自衛隊の原子力災害派遣・18

原子炉の自動停止装置・37

原子力災害対策特別措置法・46

中央即応集団・49

チェルノブイリ黒鉛炉事故時の住民避難と検査の様相・112